

令和5年度 学校経営方針

八戸市立明治中学校

1 校訓 「英知」「誠実」「自律」

2 教育目標

- (1) 自ら学ぶ生徒 [知]
- (2) 思いやりのある生徒 [徳]
- (3) 心身を鍛える生徒 [体]

チャンス チェンジ チャレンジ
機会を捉え 新たな気持ちで 挑戦する

3 努力目標

- (1) めあてをもって学習に励もう [確かな学力の保証]
- (2) 相手の気持ちを考えて行動しよう [思いやりの心の育成]
- (3) 健康づくりに励もう [たくましく生きるための体づくり]

4 学校目標

仲間を大切にし、何事にも主体的に取り組む生徒の育成

5 重点施策

- (1) 「確かな学力」を身に付けさせるための授業改善の推進 ～ 授業づくり ～
- (2) 体験的活動や周囲との関わりを通して築く望ましい人間関係 ～ 絆づくり ～
- (3) 生徒一人一人の活躍する場・認められる場の充実 ～ 居場所づくり ～
- (4) 保護者や地域住民との連携・協働の推進 ～ 情報発信 ～

6 学校経営の方針

中学校3年間は、生徒が自我に目覚め、人格の形成と社会的自立の実現に向けた人生の土台づくりを始める大切な時期である。たくましく人生を歩むことのできる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成するため、生徒の実態・保護者や地域の願いを的確に把握し、「魅力ある学校づくり」の理念を踏まえ、「授業づくり」「絆づくり」「居場所づくり」の視点に立って、教育活動を展開する。また、青森県教育委員会、八戸市教育委員会の学校教育指導の方針と重点に基づき、生徒・保護者・地域との信頼関係を基盤とした学校経営を推進する。

7 教師の基本姿勢

- ①いのち最優先の教育
生徒の「いのち」最優先の教育を行う。
- ②信頼関係の構築
誠実で丁寧な対応により、生徒・保護者・地域との信頼関係構築に努める。
- ③地域に根差した教育の推進
保護者や地域の学校にかける思いを的確にとらえ、地域の特色を生かした教育活動を展開する。
- ④協働の姿勢と同僚性の発揮
自分の持ち味を生かし、相互に助け合うことを心がけ、「明治中の教育」を支えるチーム明治の一員であるという自覚をもって学校目標の達成に努める。
- ⑤指導力の向上
研修の機会を生かし、指導力の向上に努める。

< 笑顔で 元気に さわやかに 明治中 >

8 令和5年度の実践

(1) 「確かな学力」を身に付けさせるための授業改善の推進

①生徒が問いを保って取り組む問題解決的な学習の推進

ア 課題提示の仕方を工夫するなどして、生徒が問いをもち、主体的に問題の解決に取り組む授業づくりを推進する。

イ 教材や教具、1人1台端末の活用等により、問題解決的な学習や協働的な学習の実現につながる授業づくりを研究する。

②特別支援教育の視点を生かした授業づくり

ア 全学年の英語と数学でTTを実施し、生徒の理解の状況に応じた指導を行う。

イ 特別支援アシスタントと連携して、個に応じた指導の充実に努める。

③授業改善を目指した研修の充実

ア 相互公開授業の実践により、生徒の主体的な学びにつながる問題解決的な学習の実現について研究を進める。

イ 授業改善チェックシートや授業アンケート等を活用し、授業改善に努める。

④家庭学習習慣の確立

ア 授業と宿題の関連を明確にし、課題テストや単元テストを活用しながら家庭学習の習慣化を図る。

イ JS家庭学習のやくそく：重点目標 最初に「宿題」！

※その日のうちに復習・予習

(2) 体験的活動や周囲との関わりを通して築く望ましい人間関係

※生徒理解、自己理解、他者理解の充実

①安心して生活できる学級づくり、切磋琢磨できる仲間づくり

ア 生徒一人一人が認められ、安心して学習や活動に取り組める学級づくりを目指す。

イ 生徒が個々に、あるいは協働して困難に立ち向かい挑戦できるよう、生徒と生徒、生徒と教師の人間関係、信頼関係の構築を目指す。

②教育相談体制の確立

ア 日頃から生徒の不安や悩みに寄り添い、教員の協働による相談体制を整える。

イ スクールカウンセラー等を活用した相談体制を整える。

③アンケートや調査の活用

ア 定期的なアンケートやQ-Uの結果を学級経営に活用する。

(3) 生徒一人一人の活躍する場・認められる場の充実

①体験的な教育活動の持ち方の工夫

係活動、清掃活動、学年・学校行事などの取組を通して、生徒が活躍できる場・認められる場の設定に努める。

②話し合い活動の充実

生徒会活動、学級会活動を通して、集団生活の向上に関わる合意形成の体験を充実させ、決定事項を大切にすることを養う。

③自己肯定感、自己効力感、自己有用感を育成する取組の工夫

学校生活全般や校内外の活動において、ねらいを明確にし、自己肯定感、自己効力感、自己有用感を育てる取組を進める。

(4) 保護者や地域住民との連携・協働の推進

①多様な方法による積極的な情報発信

学校だより、学年だより等各種通信や学校ブログ等を活用し、学校の様子を保護者・地域に伝える工夫をする。

②「開かれた学校」づくりの推進

参観日や行事、地域学校連携協議会を機会として、保護者・地域との信頼関係を構築する。

③地域との連携・共同の推進

教育活動において地域と連携・協働した取組を工夫する。